
【編集後記】『現象と秩序』第12号をお届けします。本誌ではじめて英語論文が投稿されたことから、投稿規定・執筆要領の改訂をおこないました。今後、英文での投稿をお考えの方々もぜひ本誌に玉稿をお寄せください（編集委員紹介制ですのでまずは委員にご相談を）。

今回は、医療・福祉領域の4本の論考が掲載されています。第一論文は、発話も動作も困難な人と、「握る／握らない」というかたちで手を使って意思疎通する際に陥りがちな問題を取り上げたビデオエスノグラフィです。第二論文は、諏訪哲史の『アサッテの人』と三島由紀夫の『金閣寺』という二つの小説のなかで描かれている吃音者像の比較検討を通じて、前者における吃音者像の新しさを論じています。「アサッテ」という言葉に「時間でも空間でもなく、消滅という作用」を読み取る、興味深い論考です。第三論文は、生活看護学という新しい領域を切り開こうとした意欲的作品です。非致命的な病気を抱える患者3名へのインタビューに基づき、かれらが医療とのバランスを取りながら、病気をいわば人生の資源とし生活にむしろ彩をもたらすものとして経験している様子を描いています。英語論文の第四論文は、「ターナー女性」2名とその家族へのインタビューに基づき、「場面としてではなく、ストーリーとして症例を観察する」必要性を見出しています。いずれも医療・福祉をクリティカルにまなざす論考として読みごたえがあります。ご堪能いただければ幸いです。

ところで、本誌編集作業中に新型コロナウイルスの感染が拡大し、世界的に未曾有の事態となりました。グローバルなモビリティの時代である現代、人間・モノ・資本・情報だけではなくウイルスも人間を“乗り物”として移動しているのだと痛感させられます。高齢者などが重症化する傾向にあると言われるなか、「集団免疫」という選択肢にはどうも違和感を覚えます。死者が〇万人で抑えられればいい方だという物言いに対しても同様です。“人為的に”淘汰される人がいることについての想像力は、「正しく恐れる」（寺田寅彦）ことの必要性が叫ばれる現在、あらためて持ち備えて、あるいは鍛えていきたいものです。（H.Y.）

『現象と秩序』編集委員会（2020年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（愛知学泉大学）

編集委員：檜田美雄（神戸市看護大学）、中塚朋子（就実大学）

編集幹事：尾崎友祐（神戸市外国語大学）

編集協力・印刷協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第12号 2020年 3月31日発行

発行所 〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4

神戸市看護大学 檜田研究室内 現象と秩序企画編集室

電話・FAX) 078-794-8074（檜田研）， e-mail: kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN : 2188-9848

ONLINE ISSN : 2188-9856

<http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html>